



お江戸舟遊び瓦版 1059号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

星野克美 「人新世の絶滅学 (2)」

～人類・文明絶滅の思弁的空無実在論～ 鳥影社 22・11・30

第3部 罪業

これまで「人類・文明の絶滅」について、①気候危機が及ぼす「人類・文明への外部からの絶滅圧力」と、②燃料資源・金属資源・水資源・食糧資源・生物資源の枯渇による「人類・文明の内部の絶滅圧力」という、二つの絶滅圧力に分けて述べてきた。

第5章 「文明絶滅」の科学研究

- 第5章では、「文明の内部の絶滅圧力」が資本主義経済を駆動力とする「工業文明」を崩壊させる「絶滅メカニズムー5段階」を述べる。

① 文明絶滅シナリオ1：自然資源の枯渇

- 前章までに燃料・金属・水・食糧・生物資源の枯渇が迫っていることを示した。何も手を打たなければ2030年頃に危機的転換が来るので、物質消費は数分の1に落さなくてはならない。

② 文明絶滅シナリオ2：資本主義の終焉

- 今世紀の中頃に、生産や再生産が不可能になって資本主義も工業文明も滅亡する。資本主義が終焉することを早期に主張したのは、水野和夫『資本主義の終焉と歴史の危機』で、利潤率と子率が長期すう勢的にゼロに接近しており、“資本主義の死”が近づいている。1970～80年代に資本主義の終わりが始まっていて、現在は、“電子・金融空間”のバブル・見かけ上の成長だと。

③ 文明絶滅シナリオ3：大恐慌の壊滅打撃

- 1929年大恐慌は、政府の巨額な財政支出で有効需要を創出して救済した。2008年大恐慌では、巨額の赤字国債を発行して有効需要を創出し、その後、金融機関が保有した国債を中央銀行が買い上げて「非伝統的金融緩和策」（日本では異次元金融緩和）を実行した。日本の政府債務対GDP比は、世界一悪化した危機的状態に陥っている。現在の財政・金融政策は、伝統的な経済学・金融学の原理から大きく乖離した、危機的次元に踏み出した。

④ 文明絶滅シナリオ4：産業革命の途絶

- 資本主義は、常に新たな「産業革命」のテーマを探索し、技術革新と産業創造によって成長と発展の持続を図ってきたが、今回は燃料資源・金属資源の枯渇に直面し、挫折することになる。問題は、「IT産業群は、電力とメタルを暴食する」という、根源的な矛盾をその産業構造に内蔵しているためだ。IT産業群は、製造や物流過程で大量の電力を消費し、大量の金属資源を消費するという、多様なデバイスやサーバーなどの「人工物」の巨大なシステムに依存することで成り立ち、大量の電力、大量の石油燃料を消費してしまうのだ。資本主義の終末期に台頭した「AI/IT/ICT産業革命」は30年代に挫折し、「最後の産業革命の痕跡」を残して終焉する。

⑤ 文明絶滅シナリオ5：再生可能エネルギーの挫折

- 2015年『パリ協定』のCO2排出削減計画で人類が救われると期待されたが、現在の衰退化した資本主義経済と悪化した財政構造と低下した企業利潤構造では不可能だ。IEAは再生可能エネルギー依存推進を提案しているが、電力コスト高で再生可能エネルギー政策は破綻目前でしかない。

太陽光発電・風力発電の本体及び周辺機器を大量に製造するための「金属資源の枯渇」が絶対的な阻害要因となって「ネットゼロ排出」の計画や政策が破綻する可能性がある。先端IT産業が世界中で急成長し、金属資源の需要も急増するために、再生可能エネルギーと先端IT産業との間に、「産業間の金属資源争奪」の動きまで現れている。



第6章 「人類絶滅」の科学研究

- ・ 第6章では、「人類・文明の外部からの絶滅圧力」として、**気候危機**による「**経済損失**」と「**人命損失**」に関する科学研究を精査し、「人類絶滅」の諸要因と「人類絶滅」に至る諸問題を述べる。
- ① **人類絶滅シナリオ1：気候危機の経済損失**
- ・ 人類は1970年以降、経済規模を3倍以上に拡大し、人口を30億人以上増加させてきたが、**環境汚染と天然資源の枯渇**を伴って成し遂げたものである。2050年には世界人口は70~90億人ともいわれ、世界経済規模は4倍に増加するが、エネルギーと天然資源のニーズも増加するのだ。
世界経済はすでに「**ピークアウト**」し、長期停滞・低迷を続けながら、繰り返される大恐慌やパンデミックの災難を経ながら、過去に大量に排出してCO₂排出量蓄積を極度に高めた結果、**気候危機が激化**して気候災害の「負の打撃」経済損失を受け続けている。
- ② **人類絶滅シナリオ2：気候危機が起こす食糧危機**
- ・ 大気温度上昇による「**穀物・野菜・果樹の凶作**」と「**家畜の熱死**」がもたらす「**食糧危機**」が人類を襲い、「**飢餓**」と「**餓死**」が人類を絶滅させる事態に陥る。「植物の高温障害と収穫量減少」、「動物・家畜の熱死」の事態は、地球上の各地ですでに起きている。CO₂濃度が400ppm、大気温度上昇が1℃に達した2015年以降、「**地球熱化**」が強まり、食糧資源となる動植物の「**熱死**」が多発し、「**食糧危機**」が人類の生存を脅かす危険性が高まっている。
- ③ **人類絶滅シナリオ3：気候危機による生物絶滅**
- ・ WWF ジャパンは、2017年「**地球温暖化による野生生物への影響**」を公表した。気候変動による**絶滅危惧種**は2020年には4000種を超え、今後の絶滅の影響は、鳥類で33%、無脊椎動物で32%、魚類で16%、両生類で13%、哺乳類で12%、爬虫類で8%にもなるとしている。**人間活動**の肥大化により野生生物の**絶滅が急速に進行**し、**生物多様性が劣化**している。植生や生物相が大きく変化すると、地球の気候自体を変えてしまう。気候変動と生物絶滅は悪循環する。
- ④ **人類絶滅シナリオ4：パンデミックの衝撃**
- ・ 現生人類が自ら引き起こした「**6度目の大絶滅**」の初期段階にあると筆者は考えている。2022年、**新型コロナ・パンデミック**が世界流行になった。2022年5月で**感染死者は626万人**、第2次世界大戦の死者6000~8000万人の1割前後に達している。感染症学研究者からは、気候変動が感染症を引き起こしている、パンデミックや気候変動に対する**世界の対応策**が大きく欠如と。産業革命以降、工業文明を飛躍的に発展させた人類の活動が、永らく「**自然態**」を持続していた「**地球気候構造**」を破壊・激変させ、生物多様性を破壊・消滅させ、人類生存を根底から脅かす。
- ⑤ **人類絶滅シナリオ5：気候危機による人命損失**
- ・ コロナ禍は自己隔離をして守れるが、**気候危機は人類を無条件に襲撃**し、人類は気候危機の襲撃を自己の意志で“**選択**”して回避することなどできない。前世紀から現在にかけて、従来の干ばつ・暴風雨に加え、**熱波・山林火災**等の大きな人命損失が発生している。
 - ・ 気候変動の生物絶滅の主要要因が「**高熱致死**」にあるという研究知見、「植物は40℃で光合成を停止する」、「哺乳類は6時間・35℃暴露で死亡する」という研究知見によれば「**人類の熱関連死亡**」は、長期日数・長時間にわたって**高熱暴露に直面**すれば「**高熱致死**」を免れない。
 - ・ OECDの報告は、2050年に**粒子状物質大気汚染による死亡数が年300万人**、**オゾン暴露の死亡数が年80万人**と予測し、大気汚染物質による死亡数の悲惨状況を示している。
 - ・ 気候変動が激化するに伴って、さらに**新たな絶滅圧力が顕在化**するかもしれないし、複雑性と渾沌性を潜在化して変容するかもしれない。それは人智を超える「**ハイパーカオス**」となり、人類にとって**不可知で制御不能**な危機となる。

所感：本書は、世界中の研究を渉猟し、文明絶滅・人類絶滅の科学研究を展開している。南海トラフ地震や首都直下型地震の危険性を学ぶ身には、その信憑性を疑いながらも、さもありませんと考えてしまう。江東5区マイナス地域災害についても、地震は必ず来ると言われている。抜本的な対策を永遠に求めざるを得ない。**誰一人取り残さないSDGs精神**を大切にしたい。(文責 中瀬)